きらり　チームほおの木

＜笑顔いっぱい　元気いっぱい　夢いっぱい＞

令和２年７月２０日（月）
文責　伊藤　博子

6年生のがんばり

６年生が、頑張っています。今年は、様々な学校行事が中止または延期となり、チームほおの木のリーダーである６年生の勇姿がないように思われているかもしれませんが、ところがどっこい６年生はしっかり頑張っています。朝、校舎内を清掃する６年生。ボランティア活動に勤しんでいます。いわゆる「朝ボラ」に一生懸命取り組んでいます。

また、水泳の学習に来ていただいた講師の先生からは、
「やっぱり６年生は違いますね。泳ぎもそうですが、態度も素晴らしいです。」
というお言葉をいただきました。

チームほおの木のために、こつこつと頑張る６年生を誇りに思います。

気づき、考え、実行する

ある日、生徒指導担当の先生から、全校生に放送が入りました。
「休み時間、皆さんはお友達と楽しく仲良く遊んでいますね。とてもいいことです。しかし、休み時間が終わった後、校庭を見てみると、使ったボールが、いくつかそのままになっています。次に使う人もいます。どうしたらいいか、考えましょう。」

すると、翌日から、使いっぱなしのボールがほとんどなくなりました。みんなが意識して片付けをしたことと、自分が使っていなくても進んで元の場所に片づける人がいたからです。

そこで考えたことは、私たち教師の指導の在り方です。子どもたちができないと言う前に、自分の指導はどうだったのか振り返ってみることが大事だと思いました。以前勤務していた学校でこんなことがありました。とにかく廊下を歩行するときの声が大きく、授業をしている学級に迷惑をかけるほどでした。しかし、子どもたちはそれが普通の状態なので何とも思っていませんでした。そこで、
「廊下では大きな声を出しません。」
と注意をしました。すると、ある児童から、
「なんで声を出してはいけないんですか。」
と、質問されました。そこで、ほかの学級の授業の迷惑になることや非常事態時の放送が聞こえなくなって、安全に生活できなくなってしまうこと、一人が大きな声を出すとそれ以上に大きな声を出すことになってさらにうるさくなってしまうことなどを話しました。すると、子どもたちは、
「なるほど。」
と、納得したようでした。そして次の日から、廊下がとても静かになりました。そのことから、子どもたちは知らなかっただけなのだと思いました。わからないからできなかっただけなのです。こんなことはちゃんとわかっているはずだという教師側の思い込みがあり、何かあると注意しかしなかったために一向に状態が改善されなかったのです。謝るのは教師側のほうだったと反省しました。

本校では約３６０人が集団で生活しています。日々様々なことが起こります。失敗も日常茶飯事です。子どもたちがうまくできないことを、
「なぜ、ちゃんとやらない！」
とおこることは簡単ですが、それでは、おこった人もおこられた人も気分が悪くなるだけで、解決には至りません。うまくいかなかったとき、大事なのは、これからどうするか考えることです。何かあったとき、よりよく生きるためにはどうしたらいいか考える。そして、いいと思ったことをやってみる。放送後、気づき、考え、実行するほおの木っ子の姿がありました。率先して片づけてくれたほおの木っ子のみなさん、ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。